

2025-26年度 第2650地区スローガン
「未来へつなぐ」

第2650地区 [1961.3.28創立]

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

会 長	山 田 博
副 会 長	安 田 志 郎
幹 事	木 原 常 裕
会報・資料委員長	酒 本 良 司

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大和 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第37回(通算3077回)2026年(令和8年)6月2日号

幹事報告

- ◎次年度合同理事会のご案内
5月26日(火)例会終了後
- ◎委員会別情報集のご案内
6月2日(火)C班

ゲスト

大倉源次郎 様
(能楽囃子方小鼓方大倉流十六世宗家 卓話講師)

誕生日祝

東辻英郎会員(5月27日)

創業記念日祝

俵本和実会員(6月1日) 枅岡 進会員(6月1日)

委員会報告及びその他報告

○ローターアクト委員会 川中教正会員
5月31日(日)に大和高田RAC30周年記念式典を開催させていただきます。来賓には小崎ガバナー、吉田ガバナー補佐等にお越しいただくことになっております。ご出席の方は、暑い時期に申し訳ございませんが、ネクタイ着用をお願いいたします。

6月23日(火)ローターアクト最終例会を市藤で開催いたします。ぜひご出席して、頑張っている若い人を応援してください。

○プログラム委員長 清水良彦会員
来週より各委員会の活動報告が始まります。6月2日(火)は、会員増強、会員選考、職業分類、ロータリー情報、公共イメージ、会報・資料、雑誌・IT、会計、S.A.A.の各委員会です。

ニコニコ箱

- ・大倉源次郎様をお迎えて。
山田 博会員 安田志郎会員
- ・季節のツバメが飛んでまいりました。大倉源次郎様をお迎えて。今日は最後の理事会です。よろしくお願ひします。
木原常裕会員
- ・大倉源次郎様をお迎えて。
池木啓仁会員
- ・誕生日祝を頂いて。
東辻英郎会員
- ・結婚記念日祝を頂いて。
林田光治会員
- ・新歌舞伎座のお芝居、2日前の日曜日鑑賞しました。鶴山さんに大変お世話になりました。
竹村恵史会員
川中光教会員
- ・喜寿を頂いて。
清水良彦会員
- ・大倉源次郎宗家よろしくお願ひいたします。
吉川雅章会員
- ・少し早いですが、プレ誕生日。
吉川雅章会員
- ・週末日曜日、ついにアクト30周年です。よろしくお願ひします。
川中教正会員

本日の例会(6月2日)

委員長活動報告(1)

次回の例会(6月9日)

委員長活動報告(2)

5月26日の例会報告

会長の時間

5月23日(土)榎原養正殿にて、桜井RCの50周年式典が開催されました。当クラブからは、私と木原幹事が参加してまいりました。桜井RCは、奈良RC、榎原RCがスポンサーとして創立されています。当日は、小崎ガバナーはじめ、多くのパストガバナーと、奈良県下の13クラブの会長様、幹事様をご出席されました。設立当時のガバナーは千玄室様でございましたので、もしお元気であれば出席されるというご返事もいただいていたということでございます。

桜井RCの今年度の活動内容がスライドで上映され、姉妹クラブである台湾の台南北RC(台南北区扶輪社)との提携継続調印式がございました。台南北RCからは10名以上の方々のご参加になっていました。

桜井RCは、2013年には会員が4名まで減少いたしました。現在は11名の方が在籍しております。そういった大変少ない会員の中で、あのような素晴らしい式典をなさったのは、非常に立派なことであると思います。財政的にもかなりきつかったのではないかと考えられます。私どものクラブは会員数も多く、そして先輩方によって、周年、IMなどのために基礎的な積立金がされてきましたので、まだ安心なのかなと思います。他のロータリークラブでも、積立金がなかったり、会員数が20名を切っているところもございます。そういうクラブでは、周年をどのように迎えるか、様子を見ながら考えているということです。

全国のロータリークラブの会員数が減少している現状ですので、我々の大和高田RCも増強に努めていかなければなりません。来年の増強委員長は私ですので、皆様方ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

4つのテスト [言行はこれに照らしてから]

1. 真実か どうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるか どうか

卓話 「小鼓から紐解く奈良」

能楽囃子方小鼓方大倉流十六世宗家

大倉源次郎 様



それこそ
オーロロ

豊臣秀吉が活躍していた時代には、大阪や奈良で盛んに能が上演されておりました。信長も非常に能を好んでいましたが、特に秀吉と秀長兄弟は能楽を嗜んでおりました。吉野の蔵王堂で文禄3年(1594年)に、家来5000人を連れて花見をしています。

その中には徳川家康や前田利家もおりました。

そして、江戸時代になりますと、徳川家康は能楽を江戸の式楽といたしました。江戸時代、能楽は共有文化として存在しておりました。そのおかげで、津軽から薩摩まで、方言では通じなかった人たちが、謡曲の「大和に住まいする某にて候」とか、こういう候文を標準語として使うことができたわけです。

これは、明治時代においても、東京に集まった人たちが文語体で話をして、近代日本への舵を切っていくことを可能にしました。ですから、当時の明治時代の公式書物は全部、謡曲のような文語体になっているわけです。こういう歴史的、文化的な背景というのが学校教育からごっそり抜けてしまっているのが、今の日本ではないかと思えます。

能楽はまさしくこの大和の地で生まれました。710年に平城遷都が行われましたが、このとき興福寺も建てられています。神仏習合の国家の建設が成功した年なんです。日本はもともと縄文時代においては互惠社会で、豊かな戦争のない国を営んでおりました。そこへ外国からいろんな人たちが入ってきて、次々と外国で行われていた戦いを、この大和の地でも繰り広げました。それは大和の地がとてもいいところだったので取り合いになったということでしょう。そのために宗教においても争いが起こりました。これが日本の紀元前3世紀から、6世紀ぐらいまでのことです。そして、聖徳太子様が和をもって尊しとするとして、神仏習合の国づくりをいたしました。法隆寺や四天王寺が建立され、四天王寺では現在も1404回続いている神仏習合のお祭りがあります。

平城遷都の710年に先立って、役の行者様が神も仏も一緒だよと、人間がすべて作り出した神様、仏様って世界観なんだよという話をしたのは668年のことです。ここから710年までの40年間は奇跡の40年間です。平和に田畑が広がったおかげで、石高が上がって、平城宮や興福寺を建てるだけの人口増加に耐える発展がありました。

このすばらしい歴史を記録しようとしたのが712年の古事記です。太安万侶や稗田阿礼が記したのですが、当時各地にはいろんな表記をする文字があったと思われませんが、大和として統一した神仏習合の国家にふさわしく、統一した言語を作ろうとしたのが万葉仮名だと考えられます。

古事記は、大和に集まった人たちからいろんな国の伝説をいっぱい集めて、一本の筋道にしてまとめたものです。ですから、時代が相当ずれたものがい

っぱい入っています。その後、さらに風土記をもって多くの話を集めました。そして、海外に対して、日本という国はこういう国ですよと説明できるように、当時の国際語である漢文で日本の歴史をまとめたのが、725年の日本書紀です。

現在は国際語として英語を学んでおりますが、8世紀の大和の人たちも、目的を持って外国語を勉強していたということです。この人たちが苦勞して作ったものを芝居にして、全国に広げる役目を持っていたのが私たちの先祖です。ですから、古事記に出てくる神様や神話に基づく話をいっぱい作って、作品として全国に広げています。国づくりの苦勞があつて大和ができたんだよとか、協力してみんなが仲良くやろうねということを伝えたのが能楽の最初の役目でした。

ここで、少し小鼓の話をしたと思います。小鼓の革は馬の革です。打つほうの革と響かすほうの革では張り方が違います。打つほうは少し厚手で緩く張ってあります。裏は薄くて少し強く張ってあります。こうやって表裏のバランスを変えることで、非常に奥の深い、強い音ができるようになっているのが特徴です。

胴は桜の木です。毎回組み立てますが、麻の紐を使います。當麻寺にも麻という字が使われていますが、あの近くにおみむらという麻を摘む村があります。昔、奈良には奈良麻が自生して非常に豊かであったと言われていました。

(演奏)

今の曲は『翁』といいまして、おじいさんがにっこり笑っている様子を演じています。おじいちゃんがにっこり笑う、これが理想の未来です。こういうように祈りの芸能としての役目も能楽にはあります。世界・日本各地で上演して、皆さんの幸せを願って、そして大和の国づくりの労苦を見せております。

能楽には5つのジャンルがありまして、神・男・女・狂・鬼、五番立てといひます。江戸初期にはもう250曲ぐらい整理されてまとめられておりました。これだけの演目を持つ文化的な芸術は世界中を探してもまずございません。

徳川家康は、これを式楽に選んで、子供の頃から殿様に歌わせました。神様、男、女、狂い、鬼の役を次々に演じる謡を歌うことによって、それぞれの心を知り、人の心が分かる為政者になっていきました。これが江戸260年の平和の礎になっております。

文禄3年、5000人の家来を伴って秀吉が開催した吉野蔵王堂の花見に徳川家康もおりました。1週間、吉野で御籠りをしたおかげで、吉野の蔵王権現としっかり向き合った家康は、ここで権現様に深く感じ入ったことであろうと思われまふ。それが証拠に、平和を願って神仏習合の新しい国づくりを目指した徳川家康が祭られたのは、日光東照大権現です。ここで権現様が突然出てくるのは、そういう背景だったのでないかと言われているわけです。日本の平和の象徴としての力がこの権現様に現れている、このようなことをもって誇りに思うべきではないかと思ひます。

出席報告	会員 総数	出席 義務 会員数	義務 会員 出席数	義務 会員 欠席数	義務 会員 MU	出席 免除 会員数	免除 会員 出席数	免除 会員 MU	出席率
5月26日	82	55	46	9	0	27	22	0	88.31%
5月19日	82	55	46	9	0	27	22	0	88.31%
5月12日	82	55	48	7	1	27	21	0	92.11%

※5月19日は弁当残数0個を達成しました。引き続きご協力をお願いします。